地域への働きかけ（見守り、ネットワーク化）、施設機能の強化

認知症を支えるネットワーク作り

取り組み内容のポイント　認知症サポーター養成講座・認知症高齢者類似体験を通し、地域にサポーター（警察、スーパー店員、小学校、中学校、地域住民、銀行等）を育成する事により、認知症の理解を地域に広めるとともに、家族への支援を行い、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりをする。

岐阜県　社会福祉法人　和光会
〒501-0104 岐阜県岐阜市寺田７丁目100
TEL：058-254-8080　FAX：058-254-8081

法人創立年

平成10（1998）年

法人実施事業

①経営施設数合計：16施設
②経営施設・事業【種別毎の数】：
特別養護老人ホーム…２、軽費老人ホーム…１、短期入所専用施設…１、有料老人ホーム…２、認知症対応型共同生活介護「グループホーム」…１、小規模多機能型居宅介護…１、障害福祉サービス…１、児童発達支援事業所…１、認知症対応型通所介護…２、夜間対応型訪問介護…１、保育園…２、児童館「岐阜市指定管理」…２

法人の理念・経営方針

法人理念
①生涯支援サービスの提供
私たちは、地域のみなさまが生涯を通じ、安心して暮らせる健康的な社会を実現するため、子育て・保健・医療・福祉の総合的なサービスを提供します。
②個人の尊重と共感
私たちは、一人ひとりの思いを尊重・共感し、生きる能力を育み、生きがいのある人生を送るため、支援を行います。
③継続的改善とたゆまぬ発展
私たちは、意欲と知恵と工夫により、働きやすい環境と教育の機会を進め、サービスの継続的改善と新たな開発により、たゆまぬ発展をめざします。

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款への記載：記載していない
②事業報告・計画への記載：記載している

取り組みを実施している施設の概要

【施設名】：ナーシングケア寺田　認知症を支える地域の会
【施設種別及び利用定員】：特別養護老人ホーム　定員100名

活動内容

◇活動開始年：平成20（2008）年９月
◇活動の対象者：地域住民及び認知症の方を介護している家族
◇活動の頻度・時間
委員会　月１回　１回あたり２時間
通年　認知症サポーター養成講座　認知症高齢者類似体験開催
つどいの場の開催

活動実施の背景、実施にいたった理由

社会福祉法人和光会、居宅介護支援事業所内のケアマネジャー達が日頃から聞いている「物忘れが多くて困った。もう自宅では生活できない」と言うご家族からの思いと、ご近所の方から「隣の人の様子がおかしいと聞いたけど、迷惑かけないかな」等の声を聴いていた。

「認知症になられても地域の中で生活していけるようなケアプランができるようにするのが大事ではないか」と考えた。又、当時、厚生労働省が推進している認知症サポーター養成講座が岐阜市において積極的に行われていないことや、認知症サポーターの登録人数が少ない事を知り、平成20（2008）年９月に認知症の理解を広める活動をするために、和光会のケアマネジャーにより、認知症サポーターキャラバンメイトを取得し、地域に向けての研修会を開始した。

また、活動のために独立行政法人福祉医療機構から、運営の助成金を受け、平成21（2009）年４月に正式に社会福祉法人和光会、特別養護老人ホーム「ナーシングケア寺田」内に（認知症を支える地域の会《地域住民代表者６名　和光会職員８名》）の活動が始まり、活動が現在まで至っている。

実施内容

認知症サポーター研修受講実績人数　平成20（2008）年285人・平成21（2009）年574人・平成22（2010）年262人、平成23（2011）年353人、総数1,474人の方が研修を受講され認知症サポーター登録ができた。参加者も小学生・日赤奉仕団員・民生委員・警察署職員・スーパー社員と広い年齢層に展開していった。23年度にはサポーターからの意見で実際の対応・声掛けはどのようにしたらよいかの意見があり、実例による寸劇での対応方法の勉強＝ステップアップ研修を開始した。岐阜市介護保険課・北方地域包括支援センター等の行政から参加もあり活動の成果が表れたものと実感した。その後、グループホーム・特養・老人保健施設で利用者とふれあい、傾聴・ゲーム・合唱等の実践といったバージョンアップ研修へと展開していった。そこで、体験することで会員は認知症の奥深さを実感した。また、高齢者疑似体験の延長として、認知症の方の目線で音と映像に

よる認知症類似体験を行い理解を深めた。3回開催し、総勢90名の方が体験実習することができた。つどいの場として認知症高齢者の介護をしておられるご家族との懇談・食事・入浴を行い、共有する時間を持つことができた（実績として、平成21年9月認知症研修及び懇親会、平成24（2012）年2月ご家族とのふれあい研修会）。

認知症サポーター増員と共にサポーターとしてどのように活動をしたら良いかを学び、より実際的に学ぶステップアップ研修、バージョンアップ研修と、段階的に指導を行い地域で認知症の方への声掛け・見守り、家族への支援につなげていく。認知症擬似体験の機械セットを利用した研修はよりリアルで効果的である。

役員会は、地域の方々で組織し、法人のスタッフは、それを専門的に支える組織としている。会員は登録制として、研修については、認定証を発行するしくみとしている。

家族の方との集いの場を開催して、普段の思いを話していただいている。

活動を通して、会員や地域の方々から、若年性認知症の方とその家族の支援は、高齢者の支援との関わり方の違いがある事がわかり、若年性認知症の方と家族の集いの場所を設け、その活動を推進していく企画をした。

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

認知症サポーター養成講座修了者から社会で実際に活動するためにさらに具体的なことを学びたいと積極的な意見が出て、次に続くステップアップ研修が開発された。その研修を受けた受講生から、施設を利用される認知症の方と実際に寄り添い、サポーターしての行動を学びたいとのさらなる具体的な活動のための提案が出され、バージョンアップ研修と名づけ、施設内での傾聴ボランテイアとしての位置づけで学びの研修が行われた。これらの提案が続々とあるに至っていることは、認知症の理解を深めようといった啓発ができた結果と考えられ、沢山の地域の方々が2段階3段階へと進まれている。

この活動は、行政にも刺激を与える結果となり、活動に賛同しサポーター養成講座の地域包括支援センターとの共同開催を積極的に展開していただくようになってきたり、地域包括支援センターが、サポーター養成に関わる事を指導されるに至っている。また、ステップアップ研修等の次に取り組む研修の意義についてもその必要性を理解され、行政が一緒に参加されるに至っている。認知症疑似体験セットを使用して体験された方からは一つ一つの行動がゆっくりであり、認知症の方は今わかっているが別の刺激が加わることで物事を忘れてしまう。本人は心細く・大変な思いで暮らしていることを理解していただけた。

つどいの場では家族の気持ちを共有し、話す事で気持ちが楽になった。また、介護者としての自分の対応の悪さがわかり参考になった。仕事をしながらの介護には限界があるが悔いが残らないようにしたい等と交流の効果はご意見から洞察することができた。

今後の展開

認知症サポーター養成講座を継続開催することは地域への認知症理解を推進できるものと位置づけている。また、法人内では地域密着型認知症通所サービス4箇所を経営しており、利用者家族との交流も本会開催つどいの場を活用していきたいとも考えている。つどいの場での意見から若年性認知症の方がデイサービスを利用したが、同年代の方がいなく自分のいる場所でないと思われ悩んでいるとの情報を得た。ケアマネジャーからも紹介するサービス事業所が見つからないなどの意見から新しい試みとして若年性認知症サロンを定期的に開きご本人及びご家族が集える場所の提供をしていきたいと考えている。

主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費（支出）	経費概算額	主な財源（収入）	財源概算額
諸謝金	367,500円	参加者収入	24,000円
旅　費	44,360円	自己資金	18,571円
		社会福祉事業研究開発基金	950,000円
所　費	580,711円		
＜合計＞	992,571円	＜合計＞	992,571円

・取り組みに係わった職員数〔13〕名
（職種等：社会福祉士・介護福祉士・看護師・介護支援専門員・事務員）
・取り組みを実施している施設の事業規模（平成23（2011）年度決算の事業活動収入）〔547,951〕千円
※法人全体の事業規模（同上）〔1,343,482〕千円

認知症類似体験（映像と音声での体験）

認知症サポーター・ステップアップ研修